

令和4年度 学校評価報告書

令和5年3月31日

北海道教育委員会教育長 様

北海道岩見沢高等養護学校長

次のとおり、令和4年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

「自立した社会参加に向けて、変化し続ける時代を自分らしく生き抜く資質と能力を育てる」
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
平均値が最も低く重点的な改善が必要な項目	最も低い数値は、項目6「私(学校)は、ホームページや各種便り等で、生徒の様子や学校の教育活動を分かりやすく伝えている。」である。「概ね良い」が67%、「概ね悪い」が9%の結果だった。平均値3.73は、全項目中、最も低い。評定においても、昨年度に引き続き、「D」評価となり、改善への具体的取組が求められる。	最も低い数値は、項目5「学校(教職員)は、学校の諸手続き等の説明、進路や福祉制度等に関する情報提供を適切に保護者に行っている。」である。「概ね良い」が81%、「概ね悪い」が3%の結果だった。平均値4.08は、全項目中、最も低い集計結果となった。 昨年度の「概ね良い」は87%のため、今年度は、6%のマイナスとなっている。特に保護者は「あまりあてはまらない」が1名「あてはまらない」が2名と回答し、他の設問と比較し、否定的な意見が高いものとなっている。 評定においても、昨年度に引き続き、「D」評価となり、改善に向け意識的に取り組むことが求められる。
改善方策	項目5及び項目6における改善方策については、「発信力」を高めることと、「発信方法」の工夫及び改善である。昨年度に続き、コロナによる保護者の来校制限等が続いている中、それを補う情報提供の機会が十分ではないことが伺える。今後も、生徒や学校の教育活動を伝える取組をさらに充実させていく必要がある。また、ICT機器を活用し動画やオンラインによる双方向型の発信、学校ホームページの充実等に取り組み、生徒の様子や学校の教育活動を分かりやすく発信していくように改善を図る。 項目5においては、引き続き福祉制度に関する研修を実施したり、進路相談を行ったりするとともに、内容の充実と積極的な情報提供による「発信力」の向上に取り組む。生徒及び保護者に必要な情報を把握するためには「発信力」とともに「受信力」も必要である。的確かつ迅速な情報提供と魅力ある発信に努めていく。	
教育活動について	項目1の「生徒の実態を踏まえ『学びを実感できる授業』『効果的な生活指導の充実と改善』『学習環境整備』を図っている。」については、教職員の評定は「C」である。 教職員77%が「概ね良い」と回答。評価項目の変更により、昨年度と同列で比較することにはならないが、昨年度の「概ね良い」と比較し、13%減少となった。肯定的な意見が大幅なマイナスとなった。生徒の実態を踏まえた授業改善や生活指導、学習環境整備に取り組みつつも、まだ途上にあることが一つの	項目2の「学校(教職員)は、将来の進路を見据えた『個別的教育支援計画等』『個人別支援計画』に応じた指導の実現(学習環境整備含む)に努めている。」については、保護者86%が「概ね良い」と回答。昨年度と同じ設定項目「概ね良い」と比較し、保護者9%のマイナスとなっている。

	要因であると考えられる。
改善方策	<p>今後においては、「個別最適な学び」「協働的な学び」をより一層充実させることや、寄宿舎における指導の充実をさらに図ること、それに伴う学習環境整備、生活環境整備を図ることに努める。</p> <p>項目2においては、昨年度、個別の指導計画の様式等の改善を行い、今年度は、個別の指導計画を活用した指導の工夫、指導の充実に取り組んだ。また、校内支援委員会などで個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用し、PDCA サイクルで動かすことにも取り組んだ。しかし、マイナスとなった評価を踏まえ、次年度は指導に生かすことを意識した計画作成や支援会議、ケース会議などでの活用を図る。また、寄宿舎においては、「個人別支援計画」の取組を本人や保護者と共有していくことや、学級や教科の担当者と連携した指導・支援としていく。</p>
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公式ホームページに学校評価結果を掲載。 ・保護者へ学校評価の結果について文書配布。 ・学校運営協議会等にて、結果を公表。(評価、学校課題や改善点について熟議)

3 添付資料

- (1) 令和4年度 学校評価報告書
- (2) 令和4年度 学校評価自己評価資料
- (3) 令和4年度 学校評価アンケート集計結果(教職員・保護者・生徒)